

# 近代湖南における雅礼協会の活動

——湘雅医院の状況を中心に——

楊 韜

〔抄 録〕

本稿は、雅礼協会 (Yale-China Association) の近代中国 (主に湖南省) における活動を考察するものである。中国は雅礼協会の活動初期からその主要活動地域に選ばれ、湖南省長沙市がその拠点であった。1906年、ヒューム博士 (Dr. Edward Hume) が長沙に「雅礼医院」と「雅礼学堂」を設立した。のちに、雅礼学堂は雅礼中学・雅礼大学へ、雅礼医院は湘雅医院へと発展、規模を拡大した。湘雅医院の設備・人員・患者数などに関する具体的な考察から、湘雅医院が内陸都市長沙において果たした役割を垣間見ることができた。まず、病院の施設や設備は、当時の長沙では最新鋭であった。また、医療活動に直接携わった人々も、ほかの病院に比べると突出していた。そして、看護学校の設立によって看護人材の育成が可能となった。こうした湘雅医院の規模や活動は、その後の長沙の公衆衛生の向上に大きな役割を果たしたと言えよう。

**キーワード** 雅礼協会、湘雅医院、医療活動

## 1 はじめに

本稿は、雅礼協会の近代中国 (主に湖南省) における活動を考察するものである。ここではとりわけ、先行研究ではあまり注目されてこなかった湘雅医院の状況を中心に取り上げる。雅礼協会に関する中国語と英語による史料 (回顧録) は数多く存在するものの、それらを網羅的に扱った先行研究は未だ少ないうえ、日本ではほとんど取り上げられていないと言えよう。以下、雅礼協会と関連史料について簡単に紹介したうえで、まず主要な先行研究について整理する。次に、湘雅医院の設立の経緯、医療設備や医療従事者、患者数などの側面から、雅礼協会の近代湖南での活動について考察し、その社会的影響、とりわけ湖南省という中国内陸地域の医療近代化に果たした役割を分析する。また、これまであまり注目されてこなかった湖南省の医療関係者と千葉医学専門学校との人的交流についても触れる。

## 2 雅礼協会について

「雅礼協会（Yale-China Association）」の前身は、1902年にアメリカのエール大学の卒業生や教員たちによって設立された「エール海外伝教会（Yale Foreign Missionary Society）」である。当初から、中国は活動地域として選ばれ、湖南省長沙市がその拠点となっていた。1906年、ヒューム博士（Dr. Edward Hume）が長沙で「雅礼医院」と「雅礼学堂」を設立した。のちに、雅礼学堂は雅礼中学・雅礼大学へ、雅礼医院は湘雅医院へと発展、規模を拡大した。次いで、1913年、湘雅看護学校が設立された。1937年になると、日中戦争戦局の拡大に伴い、これらの学校や病院は湖南省の沅陵や貴州省の貴陽などの西南地域へ移転したが、日本が敗戦した1945年、またすべて長沙へ戻った。中華人民共和国建国後の1951年、雅礼協会の所有する資産は人民政府に徴収され、雅礼協会の最後の長沙駐在代表となった Dr. Dwight Rugh はアメリカへ帰国した。これをもって、半世紀にわたって展開された雅礼協会の中国での活動は幕を下ろした。その後、雅礼協会は香港の新亜書院と連盟関係を結び、教育事業の領域において支援活動を続け、1959年に新亜書院、聯合学院、崇基学院が合併し、香港中文大学となった際は多額の出資を行った。そして、1979年以降、雅礼協会は再び中国本土での活動を開始した。



Source: Manuscripts & Archives, Yale University Library  
Produced for reference only. (rossa.img.000395)

図版1 ヒューム博士

出所：Manuscripts & Archives, Yale University

## 3 史料について

まず、英語による史料については、Hume (1946)、Reginald (1949)、Holden (1964)、Kelley (1967)、Spence (1969)、Chapman (2001) が挙げられる。Hume (1946)は、ヒュー

ム博士がアメリカに帰国後、自らの中国体験を綴った回顧録である。これは、彼の体験だけでなく、中国理解や中国人観も読み取れる貴重な書物である。Reginald (1949)は、雅礼協会が中国へ派遣した人物及び彼らの活動を扱った書物である。この書物において整理されている人名一覧は、雅礼協会の構成人員を知る重要な資料である。Holden (1964)は、雅礼協会の理事と秘書を務めた Holden 氏による回顧録である。この書物は、これまでの先行研究においても最も多く引用されているものだと思われる。Kelley (1967)は、アメリカのエール大学の大学史である。この書物において、エール大学と中国の関係について述べられているが、なかには長沙での雅礼協会の活動への言及もある。Spence (1969)は、主にヒューム博士の中国での活動を紹介したものである。日本語版も出版されており、日本語でヒューム博士や雅礼協会について知る数少ない書物の一つである。Chapman (2001)は、雅礼協会の会長を務めた Chapman 氏による雅礼協会の百年の歴史をまとめた書物であり、多くの貴重な写真が掲載されている。

続いて、中国語による史料については、黄友岐 (1986)、李守諒・汪学仁 (1986)、凌敏猷 (1986)、彭勇炎・楊伝治 (1986)、張孝騫 (1986A)、張孝騫 (1986B)、張孝騫・応元岳 (1986)、斯潘塞 (1990) が挙げられる。黄友岐 (1986) は、湘雅医学院の卒業生であり、教員でもある黄友岐氏による回顧録である。主に湘雅医学院の教育に関する状況を紹介している。李守諒・汪学仁 (1986) は、1946年以降の国共内戦期の湘雅医学院の状況を記録したものである。凌敏猷 (1986) は、湘雅医学院の卒業生であり、教員でもある凌敏猷氏による回顧録である。彭勇炎・楊伝治 (1986) は、日中戦争期の湘雅医学院及び湘雅看護学校の状況を記録したものである。張孝騫 (1986A)、張孝騫 (1986B) は、いずれも湘雅医学院の第一期卒業生である張孝騫氏の回顧録である。張孝騫は、湘雅医学院の院長職を十年間にわたって務めた人物である。張孝騫・応元岳 (1986) は湘雅医学院の創立者である顔福慶氏の生涯をまとめたものである。斯潘塞 (1990) は、前出の Spence (1969)の中国語訳である。

最後に、日本語による史料については、以下の通りである。山口昇 (1921) は、近代中国における西洋諸国の文化事業を全般的にまとめた資料集である。そのなかで、雅礼中学や湘雅医院について言及している。外務省通商局 (1924) は、近代長沙にあった日本領事館による資料集である。これは当時の長沙の状況を記した貴重な資料であり、雅礼協会についての記述も見られる。スペンス (1975) は、前出の Spence (1969)の邦訳である。

近年は、中南大学档案馆湘雅総合室が、湘雅医学院に関する歴史資料の収集・整理及び公開を積極的に行っているため、以前に比べ、「湘雅」に関する資料の入手は格段に容易となっている。湘雅医学院の院史については常時展示されており、また、2010年には湖南テレビ局の協力を得て、テレビ・ドキュメンタリー番組『故事湖南、百年湘雅』(全五回)が制作された。番組放送後、インターネット上で公開されている。<sup>(1)</sup>最近の動きとしては、2015年10月に「老湘雅視頻研討会(湘雅に関する映像コンテンツのワークショップ)」が開かれた。そこでは、

1930年代に撮影された湘雅医学院に関するサイレントフィルムが新たに公開され、関係者及び専門家によるコンテンツ内容の確認・整理が行われた。<sup>(2)</sup>

最後に、現在アメリカのエール大学図書館の電子データベース Manuscript & Archives には、雅礼協会に関する貴重な写真資料が多数登録・掲載されていることを付記しておきたい。<sup>(3)</sup>

#### 4 先行研究の整理

筆者の知る（確認済み）限り、以下の先行研究が挙げられる。

まず、最も多いのは雅礼協会の教育活動に関するものである。たとえば、Shen (1993)、林治平 (1993)、饶懐民 (1997)、彭平一 (2002)、趙厚勳 (2002)、趙厚勳 (2008)、肖志 (2010)。とりわけ Shen (1993) と趙厚勳 (2008) は雅礼協会の教育についてのまとまった研究として挙げられる。Shen (1993) は、著者がアメリカのエール大学に提出した博士論文であり、主に「クロス・カルチャー」という視点から、雅礼協会が近代中国において「アメリカ式高等教育モデル」を作り上げた際に現れた異文化交流の実態を論じている。一方、趙厚勳 (2008) は、著者が2006年に華中師範大学に提出した博士論文を底本として出版された専著である。そこでは、雅礼中学・雅礼大学・湘雅医学院の歴史に関する詳細な考察を通して、それらの属性（教会型教育機関）について分析している。

次に、日中戦争期における雅礼協会の動向を扱ったものとしては、馬敏 (1996) が挙げられる。また、湘雅医学院の出版物である『国立湘雅医学院院刊』を扱ったものとしては、譚秀榮 (2010) が挙げられる。

最後に、本稿の内容と最も関連性のあるものとして、Reeves (1966)、向磊 (2007)、黄娟・劉翔 (2008)、屈小偉・魯霓 (2009) が挙げられる。Reeves (1966) は、湘雅医院の歴史を中心に提起し、米中関係の視点から雅礼協会の中国における早期の活動を扱っている。しかし、考察射程は主に1914年までの状況について扱われており、それ以後の状況については触れられていない。また、ほかの三点（いずれも比較的最近の研究成果）は、主に西洋医学が近代中国に導入された際に生じた社会現象、すなわち民衆による抵抗や受容などを扱ったものである。しかし、湘雅医学院の医療現場の状況、たとえば湘雅医院の運営資金及び経営状態、病院の設備と規模、外来・入院患者数の詳細、当時の長沙の公衆衛生状況との関連性などにはほとんど触れられていない。これらの問題点について、できる限り明らかにするのが本稿の目的の一つである。

## 5 湘雅医院の状況

### (1) 湘雅医院設立の経緯

1906年に、ヒューム博士によって設立された雅礼医院は長沙の最初の西洋医学型病院である。1913年、湖南省政府と雅礼協会の間で「湘雅協定 (Hsiang-Ya Agreement)」を結び、共同で医学院の設立に踏み出したが、当時の北洋政府に「地方政府と外国団体との合同教育の前例がない」との理由で却下された。1914年、顔福慶<sup>(4)</sup>の尽力によって、「育群医学教育協会 (Ru-Chun Medical Education Association)」が設立され、育群医学教育協会と雅礼協会が共同で医学院を設立するという形に漕ぎつけた。ただし、実際の出資者は湖南省政府であることには変わりなかった。



図版 2 湘雅医院

出所：Manuscripts & Archives, Yale University

### (2) 湘雅医院の設備について

初期の湘雅医院の設備について、病院の機関紙である『湘雅』第一号において、次のような記述がある。

1917年（民国6年）に、北門外医師用住宅を数棟建築し、その費用は雅礼協会が負担した。同年冬、新しい病棟が竣工した。病棟は、五階建てで合計300余の部屋を擁する。地下一階には、診療受付室、ボイラ室、厨房、薬局、倉庫がある。一階の中央に事務室、左側に男性患者特別室、右側に女性患者特別室がある。二階の中央に手術室、左側に男性外科学普通室、右側に女性外科学普通室及び分娩室がある。三階の中央に実験室、左側に男性内科学普通室、右側に女性内科学普通室がある。四階には屋上庭園、放射線（レントゲン）室、駐院（当直）医師仮眠室がある。そして、屋上の最も高い場所には展望台も設けられてい



図版 3 湘雅医院へ搬送されて来る患者たち  
出所：Manuscripts & Archives, Yale University

る。建物全体はレンガコンクリートで造られ、水道・熱湯・ガスのパイプも整備されている。総建設費は385000元にのぼる。アメリカ雅礼協会の匿名の寄付によって賄われた。  
(中略) 新しい病院では、一度に130名の患者を受け入れることができる。<sup>(5)</sup>

以上に述べられた病棟の様（規模）は図版 2 から見て取れるが、展望台などの施設も一目で分かる。このような巨大な病棟を有する湘雅医院の経費の内訳の詳細は、山口昇（1921）に記載がある。以下の表 1 で示す。

表 1 湘雅医学院民国六（1917）年度上半期（1～6月）における経費予算状況  
(単位：元)

項目	細目	金額	合計金額／差額（筆者試算）
医診費 (9,420)	俸給	3,450	4,407／5,013
	内外科備品	557	
	薬局	200	
	雑費	200	
各部用費 (3,490)	家番	250	3,490／0
	炊事場	180	
	実験室	320	
	洗濯費	200	
	看護用費	50	
	薬品	1,500	
	印刷所	90	
	賄所	900	
家屋費 (1,800)	点燈料	420	1,800／0
	燃料	580	
	火災保険料	300	
	修理費	300	
	雑費	200	

出所：山口昇（1921）1282頁に基づき、筆者作成。

### (3) 湘雅医院の医療人員について

1917年前後の湘雅医院院長は D. E. H. Hume、職員には Dr. A. C. Read、Miss N. D. Gage、Miss. B. Farnsworth. の3人がいた。このほか、臨時補助員及び医者書記などが置かれていた。一年間の受け入れ患者総数は約5000人である。また、看護学校には36人の生徒が在籍していた。<sup>(6)</sup>

当時、長沙に「新式医院（西洋医療を行う病院）」はほかにもいくつかあったが、医療の人材は湘雅医院が突出していた。外務省通商局の資料に、以下のような記述がある。「当地支那人ハ衛生思想低ク医学の如キモ殆ンド進歩セス只米国人経営ノ湘雅医院ノミ洋式広ナル建築物ヲ有シ大学医科ト共ニ長沙北門外麻園嶺ニ在リ院長職員ノ外四十名内外ノ看護婦学校生徒アリ規模広大ナリ日本人経営ノ長沙医院モ亦相当設備アリ」<sup>(7)</sup>。また、この資料では当時長沙にあった主な病院について、以下のようにまとめられている。

表2 1910年代長沙の主な病院

病院名	公/私立別	院長氏名	その他
湘雅医院	公立	顔福慶	院長は米国医学校卒業、支那人医師16名、米国人医師5名
紅十字病院	公立	陳才高	院長上海医学校卒業、医員3名
秋明医院	私立	田秋明	院長日本千葉医学専門学校卒業、医士2名
康濟医院	私立	黄孟祥	院長日本千葉医学専門学校卒業
湖南公病院	公立	肅蔚霞	院長日本医学専門学校卒業、医師2名
大中華病院	私立	張一熙	資格不明
恵湘病院	私立	石王明	院長天津陸軍医学堂卒業
長沙医院	私立	加藤竹治	院長日本千葉医学専門学校卒業
湖南陸軍医院	公立	劉轉察	院長日本東京帝大医科二年修了、医師5名
同分院	公立	唐幹權	院長天津医学堂卒業、医師2名

出所：『在長沙帝国領事館管轄区域内事情』、17頁。

上記の表2から、1910年代長沙にあった病院の院長の多くは日本の千葉医学専門学校に留学していたことが分かる。見城悌治（2009）によると、当時千葉医学専門学校には多くの中国人留学生が在籍していた。そのうち、出身省別で最も多かったのは浙江省出身者であり、湖南省出身者数も全体の5%を占めていた。<sup>(8)</sup>また、千葉医学専門学校で学び、のちに帰国した中国人留学生の多くは中国各地で開業医や勤務医となった。辛亥革命勃発後、負傷者などを救護するため、千葉医学専門学校の留学生たちは「紅十字隊」を組織し、祖国へ赴いた。そして、長沙において、千葉医学専門学校出身の中国人医師と到着した紅十字隊メンバーと連携し、現地の医療救援活動に当たった。<sup>(9)</sup>見城悌治（2014）には、「千葉医学専門学校・千葉医科大学時

代の留学生名簿」が掲載されている。照合してみると、上記表2中に黄孟祥の名前が確認できるが、田秋明と肅蔚霞の二名は確認できない。しかし、勤務先（病院名）などの記録からそれぞれ「田龍瑞と簫登」であろうと推測できる。<sup>(10)</sup>

では、湘雅医院の医師はどのような診療活動（担当時間や診療内容など）を行ったのか。1919年9月7日～10月4日の『長沙大公報』において「湘雅医院啓事」が掲載され、医師の情報について以下のように公示されていた。「顏福慶医師は、毎日午前11時から12時、当院一階の特別診察室にて診療を行う。上記時間以外及び日曜日は休診。診療料金1元、往診は通常通り。呉立清女史は米国遊学経験があり、婦人科専門。（中略）李清亮医師は米国留学卒業、花柳病専門。（中略）当院各医師（男女医師、中国人医師・外国人医師を問わず）往診応需。往診の医師指名も可能。往診費用は、昼5元、夜10元。電話950番及び草潮門湘雅医学校徑由電話443番まで」<sup>(11)</sup>。以上から分かるように、当時の病院にはすでに電話が導入され、受診の予約や急患の受け入れも可能となった。



図版4 湘雅医院外科の医師と看護師たち（1935年）  
出所：Manuscripts & Archives, Yale University



図版 5 看護師の外科における実習  
出所：Manuscripts & Archives, Yale University

#### (4) 湘雅医院の患者数について

湘雅医院の患者数については、まとまった資料が未見のため、複数の史料に基づき、以下のようまとめた。

表 3 湘雅医院の患者数 (単位：人)

年	外来	入院	合計 (筆者試算)	データ出所
1907-1908	40	—	40	Holden (1964)
1910	10,000以上	347	約10,347	Holden (1964)
1911-1912	9,735	365	10,100	Reeves (1966)
1913	15,753	401	16,154	Reeves (1966)
1914	25,835	413	26,248	Reeves (1966)
1916	30,000以上	—	約30,000	Holden (1964)
1918	約10,000	—	約10,000	Holden (1964)
1919	約28,000	—	約28,000	Holden (1964)
1925-1926	42,000以上	—	約42,000	Holden (1964)
1929	40,000	2,000弱	約42,000	Holden (1964)
1937	80,000	約4,000	約84,000	Holden (1964)

出所：筆者作成。

これらは、どのぐらいの規模であったのか。日本の同仁会の付属医療機関である漢口医院と比較してみよう。

上記表 3 と表 4 から患者数の推移を比較してみる。湘雅医院と同仁会漢口医院はともに1925年ごろ四万人に達している。その後、同仁会漢口医院はおよそ四万人前後で横ばいだったに對

表4 同仁会漢口医院の患者数状況（単位：人）

年度	外来			入院			合計
	華人	日人	外人	華人	日人	外人	
1923	15,806	23,587	327	2,237	5,541	—	47,498
1924	14,622	15,402	497	3,853	5,096	22	39,492
1925	18,585	16,468	408	5,797	5,977	34	47,269
1926	20,055	16,111	320	8,429	5,386	14	50,315
1927	13,864	14,631	231	3,767	10,231	15	42,739
1928	26,893	28,094	633	5,598	9,998	4	71,220
1929	24,004	28,914	816	6,550	6,191	6	66,481
1930	32,407	21,860	718	8,770	4,106	33	67,894
1931	17,171	15,697	737	4,601	2,959	18	41,183
1932	16,968	13,010	762	5,274	1,831	—	37,845
1933	19,181	12,623	824	6,951	1,741	3	41,323
1934	27,439	12,188	600	7,636	1,154	—	49,017
1935	28,090	12,588	387	7,473	1,087	20	49,645
1936	22,649	11,345	415	7,236	1,791	54	43,490

出所：『同仁会四十年史』106頁。

して、湘雅医院は大幅に上昇、1937年に八万人を超えた。この変化の理由は、現段階で参照可能な史料からは特定できないため推測に留まるが、1937年以降の日本軍による侵攻に伴う大きな情勢変化に関連しているであろう。1937年夏の第二次上海事変、のちの南京陥落によって、上海を中心とする沿岸部地域から多くの難民が湖北省・湖南省・四川省などの内陸地域へ移動した。そのため、武漢や長沙など内陸部の中心都市における人口が短期間で大幅に増加し、それに伴う救護や治療のニーズも高まったと考えられる。一方、南京が日本軍に占領され、国民政府は首都を重慶に遷した。1937年から1938年にかけて、武漢は抗戦の中心地となった。このような事情から、武漢にあった同仁会の附属医療機関である漢口医院がそれまでと同じように機能できたとは考えにくい。

#### (5) 公衆衛生とのかかわり

1908年、Miss Nina. D. Gage. は長沙で、ヒューム博士の看護師として働きはじめた。1913年、ヒューム博士や顔福慶の支持の下で、雅礼看護学校が設立された。その後、湘雅医院の看護師の養成が軌道に乗り、湖南省における最初の看護師制度も確立された。湘雅医院の医師及び看護師たちは、長沙の公衆衛生にも力を入れていた。当時の長沙の公衆衛生状況について、外務省通商局の資料に以下のような記載がある。

一般支那人間ニハ衛生思想行キ互ラス住家ハ洋式ヲ除キ全部土間ニ起居シ食物ノ如キモ不潔、野生ノモノヲ生ニテ摂ルモノ多ク飲料水ノ如キモ殆ンド河水ヲ其儘又ハ濾過シテ之ヲ用フ故ニ五六月ノ雨季ニ入レハ屋内湿潤ニシテ青黴ヲ生シ夫ヨリ温度昂マルニ随ヒ例年伝染病発生スルヲ常トス市街ノ道路亦狹隘ニシテ大抵石ヲ敷キ詰メタリト雖モ石上掃除届カス降雨毎ニ泥土之ヲ掩ヒ乾ケハ塵芥立ち上リ特ニ人力車、一輪車等ノ往来甚シキ為敷石破壊シ兩側ノ家屋近接シテ日光地上ニ及ハス空気ノ流通極メテ不良ナリ又下水ノ設備甚タ不完全ニシテ市内ハ敷石ノ下多年浚渫セサル泥土堆積シ排水緩ニシテ到ル處道路ニ流れ出テ河川ニ近キモノハ殆ンド總テ溝ヲ造リテ河川ニ注カシム便所ノ設備亦不完全ニシテ殆ンド汚水、下水ト同シク処分セラレ其不潔甚タク沿岸数ヶ所ニ糞碼頭ト稱スル市内ノ便所ヨリ糞尿ヲ運搬シ来リ船ニ積ミ込ム所アリ夫ヨリ運ヒテ肥料トナス当地流行伝染病中第一位ヲ占ムルモノハ虎列刺ニシテ邦人間ニ於テハ「アミーバ」赤痢最モ多ク之ニ亜クハ風土病タル一種ノ瘰癧質ストス

長沙ニ於ケル大正十一年中支那人ノ虎列刺患者ハ四一三名ニシテ内死亡者ハ二八五名其他各種伝染病患者三五六名内死亡者一三五名ナリキ

大正十一年中湖南在留邦人ノ「アミーバ」赤痢患者三二名風土病患者一五名ニ達シタルモ死亡者無ク赤痢患者一名發生死亡セリ<sup>(12)</sup>

このような状況に対して、湘雅医院は社会服務部を新たに設立し、一般民衆向けの医療サービスを行った。とくに、牛痘・傷寒（腸チフス）・霍乱（コレラ）の予防注射の普及に力が注がれ、湘雅医院の医師や看護師たちも懸命に奮闘した。



図版 6 子供の予防注射  
出所：Manuscripts & Archives, Yale University

## 6 結びに

以上、湘雅医院の設備・人員・患者数などについて具体的に考察した。これらいくつかの側面からは、湘雅医院が内陸都市長沙において果たした役割を垣間見ることができた。病院の施設や設備は、当時の長沙では最新鋭であった。また、医療活動に直接携わった人材も、ほかの病院に比べると突出していた。そして、看護学校の設立によって、看護人材の育成が可能となった。こうした湘雅医院の規模や活動は、その後の長沙の公衆衛生の向上に大きな役割を果たしたと言えよう。

湘雅医院の設立と経営に関わる現地政府との関係、とりわけ1910-1920年代の軍閥混戦時代の状況については、まだ不明な点が多い。また、現地住民の湘雅医院に対する認識或いは感情は、どのようなものであったのか。ほかにも、日中戦争期の「長沙文夕大火」前後、戦後復興の際における湘雅医院の活動についても注目すべきである。これらの点については、新しい史料の発見によって解明される可能性があると思われる。さらに、「北協和、南湘雅」と並び称されたように、今後北京にある協和医院との比較研究も浮上してくるだろう。

### 〔注〕

- (1) この番組の各回のタイトルは以下のようになっている。第一回：「道一風同」、第二回：「医学勁敵」、第三回：「湖南耶魯」、第四回：「薪火相伝」、第五回：「戦火西遷」。いずれも <http://dag.its.csu.edu.cn> において公開されている（2015年7月22日確認）。
- (2) 「老湘雅視頻研討会記」、<http://dag.its.csu.edu.cn/info/1012/1591.htm> を参照（2015年10月26日確認）。
- (3) <http://web.library.yale.edu/mssa> を参照（2015年10月29日確認）。
- (4) 顔福慶（1882-1970）、中国の医師、教育者。1909年、エール大学医学博士を取得。1913年、湘雅医院外科医師。1914年、ハーバート大学公共衛生学博士を取得。1915年、中華医学会会長。1938年、国民政府内政部衛生署署長。中華人民共和国成立後、全国政協委員・中華医学会副会長・上海第一医学院副院長などを歴任。
- (5) 『湘雅』第一号、2頁。
- (6) 山口昇、1921、1281頁。
- (7) 『在長沙帝国領事館管轄区域内事情』、17頁。
- (8) 見城悌治（2009）、27頁。
- (9) 見城悌治（2009）、34頁。
- (10) 人物名の照合にあたり、見城悌治（2014）、92-93頁を参照した。なお、千葉医学専門学校の卒業生については、国立国会図書館デジタルコレクション「千葉医学専門学校校友会雑誌（1900～1929）」<http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1866555>も参照されたい（2015年10月30日確認）。
- (11) 『長沙大公報』、1919年9月7日。
- (12) 『在長沙帝国領事館管轄区域内事情』、16-17頁。

### 〔付記〕

本稿は、2011年3月20日に大阪・ホテルクライトン新大阪において開催された中国現代史研究会2010年度研究集会、および2011年7月9日に北京・首都師範大学において開催された World His-

tory Association 2011 Conference で口頭発表した内容に加筆したものである。

〔文献一覧〕

〈日本語（五十音順）〉

- 外務省通商局『在長沙帝國領事館管轄区域内事情』（外務省通商局、1924）  
見城悌治「明治～昭和期の千葉医学専門学校・千葉医科大学における留学生の動向（付 千葉医学専  
門学生・辛亥革命紅十字隊関係史料）」『国際教育』2（2009）：11-62  
見城悌治「千葉医学専門学校・千葉医科大学時代の留学生をめぐる諸史料について」『国際教育』  
7（2014）：85-117  
スペインス、ジョナサン『中国を変えた西洋人顧問』三石善吉訳（講談社、1975）  
同仁会『同仁会四十年史』（財団法人同仁会、1943）  
山口昇『欧米人の支那に於ける文化事業』（日本堂、1921）

〈英語（アルファベット順）〉

- Chapman, Nancy C. *The Yale-China Association: A Centennial History*. Hong Kong: Chinese University Press, 2001.  
Kelley, Brooks M. *Yale: A History*. New Haven: Yale University Press, 1967.  
Holden, Reuben A. *Yale-in-China: the Mainland 1901-1951*. New Haven: The Yale in China Association, 1964.  
Holden, Reuben A. *Yale: A Pictorial History*. New Haven: Yale University Press, 1967.  
Hume, Edward H. *Doctors East, Doctors West: An American Physician's Life in China*. New York: W. W. Norton, 1946.  
Reeves, William. "Sino-American Cooperation in Medicine: The Origins of Hsiang-Ya (1902-1914)." *American Missionaries in China: Papers from Harvard Seminars*. Ed. Kwang-Ching Liu, Cambridge: Harvard University Press, 1966.  
Reginald, Wheeler W. *Flight to Cathay: An Aerial Journey to Yale-in-China*. New Haven: Yale University Press, 1949.  
Shen, Xiaohong. *Yale's China and China's Yale: Americanizing Higher Education in China, 1900-1927*. Michigan: UMI Dissertation Services, 1993.  
Spence, Jonathan D. *To Change China: Western Advisers in China, 1620-1960*. Boston: Little Brown, 1969.

〈中国語（ピンインローマ字順）〉

- 黄友岐「我憶「湘雅精神」」『湖南文史資料選輯』23（1986）：45-50  
黄娟・劉翔「論雅礼協会及其近代在湘教育事業」『湖南農業大学学报（社会科学版）』9.4（2008）：86-90  
李守諒・汪学仁「憶湘雅師生在解放戰爭中的鬪争」『湖南文史資料選輯』23（1986）：37-44  
劉笑春「架設中美友誼金橋的傑出醫學家李振翩」『湖南文史資料選輯』23（1986）：53-67  
凌敏猷「從湘雅到湖南医学院」『湖南文史資料選輯』23（1986）：12-24  
林治平「耶魯在中國一二十世紀初期耶魯大學基督徒畢業生在中國之教育計劃及其貢獻」『基督教與中國論集』（宇宙光出版社、1993）  
馬敏「抗戰期間教會大學的西遷—以華中大学和湘雅医学院為例」『華中師範大学学报（哲社版）』2（1996）：50-58  
彭平一「湘雅医学院是教會大學嗎」『高等教育研究』23.6（2002）：94-98  
彭勇炎・楊伝治「抗戰中的湘雅醫院沅陵分院和湘雅護校」『湖南文史資料選輯』23（1986）：33-36  
屈小偉・魯寬「雅礼會在湘的醫療事業及其影響」『萍鄉高等專科學校学报』26.4（2009）：109-111

- 饶懷民「從湘雅医学院的創辦看教会大学的作用」『湖南師範大学社会科学学報』26（1997）：98-103
- 斯潘塞『改变中国』曹德駿ほか訳（三聯書店、1990）
- 譚秀榮「『国立湘雅医学院院刊』的創刊及其科技史價值」『西北大学学報（自然科学版）』40.2（2010）：365-370
- 向磊「湘雅医学院与西医入華的社会効応」『中南大学学報（社会科学版）』13.6（2007）：719-725
- 肖志「30年代雅礼中学国文教学的歷史鉤沉与現實啓示」『湘潮』327（2010）：77-78
- 張孝騫「湘雅医学院的緣起和變遷」『湖南文史資料選輯』23（1986A）：1-11
- 張孝騫「国立湘雅医学院西遷貴陽的情況」『湖南文史資料選輯』23（1986B）：25-32
- 張孝騫・応元岳「懷念湘雅創始人之一顏福慶」『湖南文史資料選輯』23（1986）：51-52
- 趙厚勳「論雅礼会在華教育機構的性質問題」『教育研究与實驗』6（2002）：51-55
- 趙厚勳『雅礼与中国—雅礼会在華教育事業研究（1906-1951）』（山東教育出版社、2008）

（よう とう 中国学科）

2015年11月9日受理